


ふりがな 氏名	なとり りょうすけ 名取 亮介	都道府県 長野県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県喬木村教育委員会 ICT 支援員 ・長野ユネスコ協会青年部つながる 		
私のESD活動	教育における ICT 活用を広め、子どもたちが未来を生き抜くためのスキルを獲得するサポートをしている		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

長野県喬木村教育委員会の ICT 支援員として勤め、学校教育における ICT(情報通信技術)活用をサポートしている。社会においては技術革新が著しく、生活の中で欠かせないものとなっているはずの ICT だが、学校教育においては十分に活用されているとはいえない。昨今、国としてもICTの積極的な活用を促している。正しく情報を読み取り、発信し、さらには創造していくことが求められる現代において、ICT 機器を扱うスキルは、もはや「よりよく生きる」ための余剰のスキルではなく、「生き抜く」ための一般的なスキルへと変容している。子どもたちには、社会を「生き抜く」だけでなく、多様な他者と協働して新たな価値を創造していくことが求められている。ICT は人種や国境を越え、すべての人が等しくコミュニケーションをとれる可能性を秘めている、まさにこれからの教育の本質に関わる一面を持っている。

職についてまだ半年ほど、先生方が ICT 機器を使う際の操作サポートやトラブル対応を超え、授業設計の手伝いや授業アシスタントを依頼されることも増えてきた。まだ短期間の実践ではあるが、ICTを導入したことで教育のスタイルに変化が起き、子供たちのコミュニケーション能力が上がっていると実感する先生もいる。ICTはツールであり、目的はその先にある。私はこのツールを使いこなすという視点から教育を捉えなおすことができるICT支援員という職業に、機器操作サポートを超えた、未来を生き抜く子どもたちがよりよい社会を創造していけるようなESDの視点に立った学びをサポートするという可能性を見出し、実践している。

○「長野県喬木村のICT活用教育に関する取組」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1369517.htm 配布資料2

○「長野県喬木村とり上げられた記事」 <http://ict-eneews.net/2015/12/21takagi/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？

自らの職務を通して、総合的な観点からみた教育のよりよい発展・創造に携わりたい。職業上は公教育に携わる立場であるが、ライフワークとして子どもたちの主体的で協働的な、自由な学びを実現できるようなノンフォーマルな学びの場も創りたい。ICTは可能性を秘めるひとつのツールに過ぎず、その利用にばかり目が行ってしまえば本末転倒になってしまう。多様な人とのコミュニケーションや、雄大な自然の中で活動する経験などの原体験を通してこそ、ツールとしてのICTの利活用につながる。しかし、そのような活動すべてを公教育の範囲でカバーするのは不可能に近い。ときには自然とふれあいながら全力で遊び、ときにはICTをつかいこなし世界中の人と対話したりするような総合的な学びを提供し、公教育と相乗的に子どもの学びを高めていける「教育」の場が必要だと考えている。

学校教育の学びの質を上げていくサポートをする一方で、ノンフォーマルな場で子どもが自由な学びを発揮することを保証していける環境をつくることで、ESDが目指すような「持続可能な社会づくりの担い手」を育成することに貢献する。